

七尾みなと ロータリークラブ



クラブテーマ 「広がるロータリー」

姉妹クラブ：カーメル・バイ・ザ・シー R C【RID 5230】
友好クラブ：あづみ野 R C【RID 2600】・瀬戸北 R C【RID 2760】



第 1475 回例会 2017 年 8 月 3 日(木) 18:30 開会点鐘 ゆけむりの宿美湾荘

納涼親睦家族例会

◎ 8 月度のお祝い発表

〈会員誕生日〉	〈ご夫人誕生日〉
14 日 寺田 彰さん	2 日 戸田広美さん
23 日 鳥畑 弘さん	9 日 佐味慶子さん
24 日 佐味一郎さん	15 日 井田茂美さん
25 日 関軒明宏さん	21 日 辰田陽子さん
28 日 田中 哲さん	22 日 木下由美子さん
〈結婚記念日〉 12 日 須曾 茂・裕美子 ご夫妻	おめでとうございます!

早朝例会(第 1474 回例会、7/25)報告
進行：間蔵 SAA

◎開会点鐘

◎会長挨拶 多田 会長

今日は恒例の当クラブ早朝例会にご出席頂き有難うございます。全国で豪雨が猛威を振るう中、お陰様で今朝は雨も暫し止んだ中お忙しい会員の皆様にご長齢寺にて大橋住職様よりの法話と座禅の御指導を頂くわけです。実は私は全国の旅館組合の役目を仰せ付かっている為、7月初めにありました九州地方の豪雨被害等が発生しますと、朝から電話やメールが沢山参り、災害本部を立ち上げる経験をしました。昨日も秋田で豪雨の被害が発生しましたが、ニュースで行政のトップの方が地元を離れて居り連絡を受けているにも関わらず判断ミスをしてしまい帰るのが翌日となり、陳謝するシーンが報道されていました。他人事で無く私達も良い教訓として、この事を受け止めなければ成らないと思います。会員の皆様は各々の企業のトップであり、他の集まりの指導者幹部をされている方も大勢おられると思います。危機に遭遇した時、如何に判断するか大切な舵切りを正しく出来るように七尾みなとロータリーの例会や交流を通じ知見を高めましょう。

◎幹事報告 田中 幹事 別紙配布
・徳永会員の出席規定適用の免除(7/1～)を承認。

◎地区職業奉仕委員長会議報告 岡崎地域社会奉仕委員長

◎献血会 PR(8/4(金)) 吉井会員より

◎出席報告 大森 出席小委員長
会員総数 50 名(内、出席規定適用の免除者 5 名)出席者 36 名
メイク 7/23 地区職業奉仕委員長会議：岡崎
第 2 回理事会(7/18)承認分
7/7 七尾モントレイ友好協会：中出、久保

◎ニコニコ箱紹介 長坂 ニコニコ箱管理小委員長
多田会長 皆様おはようございます。文字通り？山の寺の山中で中出さんと迷走しました。

戸田 今年もよろしくお祈りします。
間蔵 長齢寺様、今年もお世話になります、毎年ありがとうございます。

山田 大橋住職、今日はお世話になります!!よろしくお祈りします。

姥浦昭二 長齢寺様、今年もお世話になります。
木下敬夫 大橋住職、本日もよろしくお祈りします。

田中 大橋住職、お世話になります。1年経つのも早いんですね。砂入れのお仕事すぐにかかりますよ、お祈りします。

桑原 夏日続きの中、恵みの雨はありがたいですが、度を越す雨量はいただけませんね。今日は 1 年に 1 度の早朝例会、大橋住職様よろしくお祈りします。

魚岸・山本・所司・中野・岡崎・須曾・姥浦敏明・吉井・森・長・中越 長齢寺さんお世話になります。

7/25 日計 21,000 円 累計 124,000 円

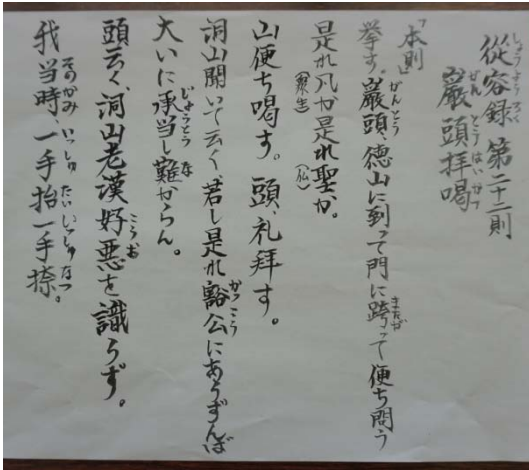
月	日	曜	プログラム	週報担当
8	3	木	18:30 納涼親睦家族例会 (ゆけむりの宿美湾荘)	須曾
8	8	火	米山奨学生 ハリー・セイザー 君 卓話	桑原
8	15	火	取消休会	—
8	22	火	会員卓話 戸田一明 直前会長	中野
8	29	火	ゲスト卓話 榎石川スポーツキャンプ 代表取締役 吉田 泰 氏	長田

会 長 多田 計介
副 会 長 魚岸 誠
副 会 長 中出 信行
幹 事 田中 哲
広報ニューメンバーズ委員長 姥浦 敏明

創立1986年6月15日
RI 認証1986年6月26日
【国内第1721】



◎法話 長齡寺 住職 大橋紀宏 氏



ようこそ本年も早朝坐禅に来ていただき有難うございます。
この文は禅宗の問答のやり取りを記録したものです。そこに問うもの問われるものの悟りの境涯が端的に示されています。読ませてください。

從容録第二十二則 巖頭拜喝

拳す。巖頭、徳山に到って門に跨って便ち問う是れ凡か是れ聖か。山便ち喝す。頭礼拝す。洞山聞いて云く、若し是れ豁公に非ずんば大いに承当し難からん。頭云く、洞山老漢好悪を識らず。我當時一手拍一手捺。

巖頭という人が徳山の住職するお寺の山門を跨いで「凡人なのか聖人なのか」問いました。

徳山は「一喝」します。もう言葉に騙されていない境涯、凡だの聖だの迷いだの悟りだの一切の対立を超越している境涯を示しました。人は聞いた言葉を瞬時に聞き流しているにも関わらず、その言葉に縛られ身動きできないで、ややもすると悩みの淵に落ちていきますが、ここでは一喝しそんな凡だの聖だの聞いてきたが、すでに私たちは清浄な機能を持ち縛られず自由自在の境涯に要るぞと、お示し下さいました。

そこで問いかけた巖頭は少し験にきたところがあつたが、巖頭は礼拝をして恐れ入りましたという態度を示しました。

禅宗では、一喝は修行者を導く手段としてよく用いられます。臨済宗の開祖は、誰が訪ねてきて本当の道とは何かと問うと、唯一喝するのみでした。徳山は、のちに棒でたたくのみでした。

どんなに悩んでいても不意に、「喝」と言われると、さっきまで悩んでいたことも、びっくりして吹っ飛びのではありませんか。そこで修行者はふと気づきます。悩みなんて実体のないもの、何を思いで抱えて縛られていたのだろうか。誰にも邪魔されず、自由自在の境涯ではないかと目覚めるのです。

◎座禅



◎朝がゆ

◎閉会点鐘

[週報担当: 木下敬夫]

次週予告

8月8日(火) 12:30開会点鐘 番伊
米山奨学生 ハリー・セイザー君 卓話

今週の例会担当者: 今井徹、姥浦秀史、辰田、山田、三井 (8/3)

次週の例会担当者: 大森、茶谷、木下徳泰、西野 (8/8)